

医療と国民皆保険制度は きいろ信号

高齢者にも現役世代にも偏らない改善を強く望む
(60代) 自分より若い人たちが重い保険料負担
で苦しんでいるのを見ると心が痛みます(50代)
制度として、この先も続けられるのか疑問(60代)

高齢化が進む中、医療を支えきれぬのか不安です(60代) 医療費の増加を見て、将来が不安になりました(50代) 医療費の増加は問題だが、病院の経営が苦しいというニュースもある。どうすればいいのだろう(50代) 現役世代の負担のあり方に疑問を感じます(20代) 子どもたち世代に負担をかけたくないが、どうすればいいのだろう(50代) 考えていたより大変なことになっているのですね(40代) 現状を知ることの大切さに気づきました(50代) 今の仕組みでは、制度を維持できないのでは…(30代) 国民皆保険制度に無理が生じていることを国民が認識する必要がある(40代) 安心して医療機関を受診できるのは皆保険制度のおかげ。いつまでも続くために改革が必要(60代) 皆保険制度を破綻させたくない。強く思います(50代) 高齢者と現役世代の対立構造ではなく、現役世代もいずれは高齢者になることを踏まえて長いスパンで制度設計を(70代) 誰かの負担を増やしたり、給付を削ったりでは根本的な解決にはならない(50代) 応分の費用負担など、時代とともに制度を変えていく必要がある(60代) 単に高齢者負担を増やすのではなく、医療保険制度自体の見直しが必要だと思います(40代)

このままでは、「当たり前の医療」が
当たり前でなくなります

日本の国民皆保険制度は、誰もが必要な医療を受けられる、世界に誇る医療保険の仕組みです。しかし、その土台が揺らいでいます。医療費は増え続けています。2008年に34.8兆円だった国民医療費は、2023年には48.1兆円にまで膨らみました。2040年には73.3兆円にのぼることも予測されています。背景にあるのは高齢者人口の増加。その一方で、現役世代は減り続けています。現役世代が納める健康保険料の約4割は高齢者医療を支えるために使われています。この15年間で保険料負担は1.35倍になりました。支える人は減り、支えられる人は増えていく。負担と給付のバランスは、年々、大きく崩れつつあります。国民皆保険制度を未来に引き継ぐために必要なのは、「**誰かが支える制度**」から「**全世代で支え合う制度**」への転換、そして、**一人ひとりの「気づき」と「行動」**です。

き
い
ろ

危機的状況

国民医療費の増加で
医療と国民皆保険制度がピンチ

医療費の増加で 私たちの保険料が上昇

年間保険料は15年で1.35倍に

6割しか残らない 現役世代の保険料

約4割が高齢者医療に

国民皆保険制度を未来へ。あなたの声を聞かせてください。

「きいろをみどりへ」特設ページはこちらから >>>



ご意見はこちらから >>>

